

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果では、国語と数学は全国平均とほぼ同じで、都平均より低い。英語は全国・都平均よりも低い。3教科共通することは、基礎問題は解けているが、「根拠（理由）を説明すること」「長文記述や説明文を最後まで読み進めること」「複数の条件やデータを同時に整理して判断すること」に弱さが見られる。

○問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを根拠をもとに論理的に説明する、文章で書くことが苦手な生徒が多い。

○粘り強く長文を読み進めることが苦手な生徒が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○気付きのある授業を行い、生徒一人ひとりが考え、グループで互いの意見を出し、考えを深め、深い学びにつなげ、それを根拠や理由をもとに、論理的に説明できる場面を多く設定した授業づくりをしていく必要がある。

○本時のめあてがどの程度達成できたかの振り返りはできているが、何が課題でどのように学習を進めていけばよいのか等の自己決定力や自己調整力を身に付けることができるように、スタンダードSの取組や振り返りの視点を明確にした振り返り、学び方に関する他の生徒の考えの共有等を行い、指導を行っていく。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○小学校の学びの連続性を意識し、「板橋区授業スタンダード」の徹底及び「板橋区授業スタンダードS」に基づいた授業を行い、基礎的・基本的な学力の定着、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

○一人一台端末を活用し、興味関心のもてる授業、明確な発問等で気付きのある授業、課題解決的な活動、個に応じた活動、200字程度の文章で考えをまとめる活動、個人ーグループー個人で考えを深める協働的な学習を推進し、生徒が主体的に学習に取り組めるように授業改善を図る。

○小単元ごとに100字程度の振り返りを行い、主体的に学習を調整できる力を育成する。

○学習方法や内容を自ら選択・決定し、主体的に学びに向かう力を育成する。

○学力向上専門員等授業支援、長期休業中の学習教室を実施し、学力の向上を図る。

○SDGs・環境・キャリア・平和・郷土愛をテーマに「課題設定・情報収集・整理分析・できることを実行・まとめ発表を実施し、探究的な学習の充実を図る。

○学力定着のために、家庭学習指導の充実、読書習慣の定着を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返りの学習の流れを定着させる。	○一人一台端末を活用し、個の理解度や興味関心に応じた学習内容や支援方法の選択、「個人ーグループー個人」で、生徒一人ひとりの考えを共有し、多様な考え方に気付き、自分の考えをさらに深め、根拠を踏まえた論理的な文章で表現できるように指導の充実を図る。	○各教科等の学び、学習内容面と学習過程面（課題設定ー情報収集ー整理分析ーできることを実行ーまとめ発表）を総合的な学習の時間につなげられるようにし、探究的な学習を行う。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

幼小小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○スタートカリキュラムや9年間を見通した単元配列表に基づき、小学校、中学校での学びを意識した指導の工夫を行う。	○道徳・人権・福祉教育を通して「誰もが幸せを感じられる学校」をめざし、多様な人が、自他の個性、違いを認め合い、尊重し、励まし合い、支え合い、自他の生命を大切にできるように、指導の徹底を図り、共感的、親和的な学級・学年づくりを推進する。	○一人ひとりの発達の特性や障害の状況に応じ、ICTツールや合理的な配慮を取り入れながらきめ細かな指導の充実を図る。
○「キャリア教育」（職場体験、起業家教育）、「環境教育」「平和学習」「SDGs」を中心に、生活科・総合的な学習の時間の連携を図る。	○一人ひとりの「好き」や「得意」「可能性」を引き出し、伸ばす指導を推進する。	○居場所でのオンライン授業、学力向上支援員による支援を行う。
○学びのエリアのめざす子ども像や課題を共有し、「一教科一取組」の実施及び「読み解く力」の育成を推進する。	○「給食News」を通じた食育の推進及び補強運動による体力の向上を図る。	○読書習慣を身に付けさせ、生涯を通じた読書活動の充実を図る。
		○日本語指導の必要な生徒が日本語を学べる環境づくりを行う。